

2012年11月19日付「しんぶん赤旗」から転載

18日、新潟市内で開かれた日本共産党演説会に寄せられたJA新潟中央会の萬歳章会長のメッセージを紹介します。

JA新潟中央会 萬歳章会長のメッセージ

本日、志位委員長が来県され、「日本共産党演説会」が盛大に開催されますことに対し、お祝い申し上げます。

現在、国民的な重要課題であるTPP問題については、本日からカンボジアで開催されております「東アジアサミット」で、日米首脳会談が設定され、この場で正式な参加表明があるのではないかと懸念しております。

すでに、われわれJAグループなど農業サイドだけでなく、医師会など医療関係者や多くの地方議会が反対や慎重な検討を求めてきているなか、これらの声を無視し参加表明することは断じて認められません。

「十分な国民的議論とこれを前提にした国益の視点」、さらに「守るべきものは守り抜く」と総理自らが発言していますが、一体何を守り、何が国益なのでしょう。

日本は、長い歴史と文化のなかで、わが国に合った慣習や制度を育んできました。TPPは単に例外なき関税の撤廃だけでなく、アメリカが非関税障壁と呼ぶ日本独特の制度を根底から覆し、「ルールの統一化だ」と言って、何でもかんでもアメリカ式に合わせようとするものであります。競争だけでなくお互いを気遣う「互助」や「絆」といった、まさに今、海外諸国が注目している日本のすばらしい精神を、自らが捨て去ることになってしまうのです。

野田総理が進めるべきは、市場原理・競争第一主義ではなく、われわれ協同組合が掲げる共に助け合う社会、相手をいたわる社会の実現であります。

貴党も、人々が安心して暮らせる住みよい地域社会づくりに貢献するため、さまざまな分野で行動していることに敬意を表し、本演説会の成功とご参集の皆さんのますますのご健勝を祈念しメッセージいたします。